

# 井の国歴史懇話会報

VOL7

発行：井の国歴史懇話会事務局 発行日 平成26年9月20日



## ～桶狭間前後の家康の足跡を訪ねて

### 桶狭間探訪記

武藤全裕

永禄三年(1560)五月十九日、今川義元に従って出陣した二十二代井伊直盛は、桶狭間で先手をおおせつかり、義元の本陣を守り固めていた。今回の義元の西進は尾張の織田信長を討つためである。遠征の疲れ、連勝からくる士気の緩みがたまたま義元の本陣を一気に急襲したのが信長の軍勢である。大将義元は討たれ、本陣を守っていた井伊直盛戦死、従う二百余名の井伊軍勢は壊滅したといわれている。

その激戦地桶狭間を自分の目で確かめるのが、今回の実地研修であった。感想を二つ記す。

1 桶狭間の地形。想像していたより平坦地、山というより丘、丘の続く土地である。岡崎郷土史家市橋章男先生の案内で鳴海砦に登り見る。目の前に信長軍が結集した中島砦。そこよりは桶狭間山陣の義元軍の動きが一望できる。折からの雨の中、信長は家臣の制止をふり切り、桶狭間山を目指して突進したとのこと。現地立つと、なるほどとうなずける地形である。



桶狭間古戦場公園にて

2 桶狭間合戦の古戦場跡は二つある。その一つ名古屋市緑区にある桶狭間古戦場跡を見学。公園風に整備されている。公園内の地面に桶狭間合戦の立体地図が作られていた。その中で「井伊直盛の陣」と石に刻まれた標識を発見、感慨ひとしお。その近くに二侯城主松井氏の名を刻んだ石もある。説明によると、この二人の陣は桶狭間の本陣より少し離れた所にあり、本陣で義元が討たれたと聞かすや、両将共に手勢を率い織田軍目指し突入、戦死したとのこと。桶狭間の合戦記で、義元に従う武将の名が記されている唯一の古戦場跡である。



向かって左井伊陣・右松井陣の名盤。

公園内には桶狭間合戦の陣容が再現されてある。

さて来年はいよいよ「徳川家康公四百年祭」の年。家康ナンバー2井伊直政が浜松市井伊谷の出身であります。懇話会でもこれに参画し、井伊直政を顕彰していきたいと思っています。ご協力のほどよろしくお願い致します。



岡崎市両町 築山御前の墓

## 現地研修の報告

鈴木一夫

5月21日総会で講話「家康公の自立と三河平定」を頂いた、岡崎塾歴史教室主宰市橋幸男先生のご案内で、桶狭間合戦の現地と松平氏の菩提寺である大樹寺の見学と築山御前の墓にお参りをしてきました。



大樹寺にて市橋先生の説明

今川義元と織田信長で戦われた桶狭間の戦いをご承知のことと思いますが、一部ポイントを簡記してみました。

### 合戦の砦 (○見学・◇車中遠望)

今川方	◇大高城		
	○鳴海城		
	沓掛城	当日の出撃基地	
織田方	◇善照寺砦	当日の出撃基地	鳴海城付城
	◇鷲津砦		大高城付城
	○丸根砦		大高城付城
	中島砦	各砦連絡、現存せず	

今川方3城は今川氏の尾張進出により、信長家督引継ぎ後、城将が寝返ったもの。織田方の砦はこれに対抗して構築された。

### 兵力

今川方	25,000人	武士	2,500～3,000人
		雑兵	
織田方	3,000人	武士	2,000人以上

\* 雑兵とは身分の低い兵卒・足軽  
輜重隊 食料の現地調達・荷駄の運搬要員

兵力で今川方が圧倒的優位であるが戦闘力の無い武士の力では大きな差はないと考えられている。

今川方は鷲津砦攻略に朝比奈氏・丸根砦攻略に松平氏・鳴海城に岡部氏・大高城に鶴殿と旗下の精鋭を分散したので攻撃を受けた、本隊の戦力が著しく低下していた。

## 信長の情報管理

地域の地形・気象などを詳細に熟知している。沓掛の土豪である梁田氏が特務機関のような組織を作り活動したため、今川軍の行動は全て把握していたと思われる。

- \* 梁田氏は戦後最大の恩賞を受けている。
- \* 活動には蜂須賀氏・前野氏も連携したか？

## 信長の攻撃路

善照寺砦は山手を迂回して桶狭間に向かったとの説が多くあったが現在は研究が進み東海道に沿った正面攻撃であったとの説が大勢である。

## 奇襲

屋中の大部隊の攻撃は正に奇襲であり今川軍の行動を完全に把握しての今川本陣への全員攻撃であった。

## 雷雨

両軍共に予想外であったと思われるが織田方には最善、今川方には最悪の気象条件であった。戦況を大きく左右したと考えられる。



現地の案内板より



井伊家の状況

我が井の国22代領主井伊直盛が先発隊として出陣。合戦では義元本隊の旗本として武士16名と共に全員討ち死に。虎松(直政)が家康に出仕する迄60年井伊家受難の時代であった。

- 1513年 今川氏親の侵攻により三岳城落城。  
今川氏に服属
- 1536年 井伊直宗(21代)今川氏に従軍。田原の戦いにて討ち死に
- 1544年 直宗の弟、直満・直義は義元により謀殺
- 1562年 井伊直親(23代)朝比奈氏により謀殺
- 1563年 井伊直平(20代)有玉旗屋で?急死
- 1565年 直盛女女性地頭次郎法師
- 1575年 虎松、徳川家康に出仕

合戦後

松平元康、大高城へ食料搬入後丸根砦攻略後、鶴殿氏と交替に城の守りに入る。合戦後大樹寺を経て岡崎城に入る。今川氏より実質的に自立。信長、家康共に領国内の平定に注力、水野氏の働きにより和睦成立。永禄5年清洲において同盟(清洲攻守同盟)成立。元康、家康と改名。今川氏真と対立することとなった。信長・家康の天下取りの発展に同盟は大きな貢献を果たし、信長本能寺にたおれるまで最大に機能した。

その他

記録にはないが秀吉は足軽組頭として参戦していたのではないかと?

## 合戦時の戦国武将の年齢

今川義元	42歳	織田信長	27歳
徳川家康	19歳	武田信玄	39歳
上杉謙信	31歳	豊臣秀吉	25歳
黒田官兵衛	15歳	井伊直盛	35歳

追記

昼食は岡崎の八丁魚光(代表渡辺英二)さんのお座敷で会席膳を頂く、渡辺さんは市橋先生の教え子とのこと(現在も)当会に新会員として仲間入り。御馳走を配慮いただきありがとうございました。おいしかったです。

「龍潭寺境内図」 彦根城博物館蔵

平成19年5月に「国宝彦根城築城400年祭」が彦根市で開催され井伊谷との友好が結ばれ記念すべきイベントとなりました。特別企画で彦根城博物館にて「戦国から安泰の世へ」が開催され、寺から「龍潭寺開山過去帳」と「井伊直親像」「今川氏真判物」「次郎法師置文」の4点を展覧いたしました。この展示会に「龍潭寺絵図」がありました。このほかにも遠州地方の地図が2点一緒に展示され寛保2年の年号がありました。この年号は、井伊家霊屋の落慶式を行った250年前の年号です。ここに古い当時の本堂の絵が描かれていたのです。実はこの境内図が平成21年から行われた本堂再建工事の重要な資料となったのでした。今となってみればたまたま私が行った彦根で見た展示により今の本堂の形が分かったということになったのでした。

**26年度の予定 (敬称略)**

- 10月23日(木) 13:30~16:00  
講話 「家康公と井伊直政」  
講師 武藤全裕 & 会員発表
- 11月22日(土) 13:30~16:00  
「徳川記念財団コンクールin浜松」  
入賞作文の表彰式後  
「徳川恒孝」徳川宗家当主の記念講演開催
- 1月22日(木) 13:30~16:00  
講話「山深き里に香る文化の流れ」  
～寺野伊藤一族の伝説…涅槃図と能面～
- 2月14日(土) 8:00~17:00  
「龍潭寺住職と歴史にふれる旅④」  
現地研修 涅槃図と浜川井伊氏の史跡拝観ツアー